

歴史の重みを肌で感じながら

今年もにぎやかに

「八朔祭」



九月一日、台風の影響が心配されましたが、都留市の一大イベント「八朔祭」が盛大に行われました。

復活してから十六回目を迎えた大名列行は、消防団、小・中学生、地元企業の皆さんに、商店連合会が、お姫様・腰元役を投票により募集し、見事上位入賞を果たした七名が加わり、沿道の方々の盛んな拍手と、カメラのフラッシュを浴び、行列に華を添えました。

メイン会場の谷村第一小学校校庭では、八朔イン都留の皆さんによる勇壮な太鼓を皮切りに、保育園・幼稚園児のかわいい演技や毛槍保存会、婦人会の舞や踊りが披露された後、今や「おはっさく」の名物となった都留大名連の皆さんによる阿波踊りが、軽快なリズムとともに会場に入ってくるころには、祭りもクライマックス。

続いて大名列行がいよいよ会場にその姿を現し、奴さんの「ア、ヨイヤマカ、ヨイ」のかけ声が、会場せましと響きわたると、大勢の観客から盛んな喝采を浴び、総勢百十二名に及ぶ行列はその声援に応えながら、満足げに頬をゆるませていました。

今年の殿様は、
藤江消防団長



藤江団長に殿様になる

意気込みを
聞いてみました

「われわれ消防団の先輩方が大名列復活の年から参加しているイベントなので、今日は朝からちよっと緊張気味です」とおっしゃる藤江さん。

「十六人目の殿様に扮することができて光栄に思うと同時に、しっかりと努めなければと、身が引き締まる思いです。また、都留が誇れる大名列を市民の皆さんの力で、末永く続けられるように協力していただけたならもっともっとならしたいものになると思います。私も、微力ではありますが、全面的に協力します」と力強く語ってくれました。